

キヤノン株式会社

2023年第2四半期 決算説明会

2023年7月27日

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

■ 2023年2Q実績	P 2～3
■ 2023年最新見通し	P 4～5
■ ビジネスユニット別詳細 (2023年2Q実績/2023年最新見通し)	P 6～12
■ 財務状況	P 13～14
■ サステナビリティへの取り組み	P 15
■ グローバル優良企業グループ構想PhaseVI	P 16
■ 参考資料	P 17～21

2023年 2Q/上期 実績のポイント

- 計画通り、10四半期連続増収、利益額・利益率ともに1Qから向上
- 上期は増収・増益を達成

(億円)	2Q			上期		
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 実績	2022年 実績	対前年
売上高	10,209	9,988	+2.2%	19,920	18,781	+6.1%
売上総利益 (売上総利益率)	4,848 47.5%	4,640 46.5%	+4.5%	9,388 47.1%	8,584 45.7%	+9.4%
経費 (経費率)	3,925 38.5%	3,655 36.6%		7,621 38.2%	6,838 36.4%	
営業利益 (営業利益率)	923 9.0%	985 9.9%	-6.3%	1,767 8.9%	1,746 9.3%	+1.2%
税引前利益	1,011	852	+18.7%	1,887	1,529	+23.4%
純利益 (純利益率)	654 6.4%	590 5.9%	+10.8%	1,218 6.1%	1,050 5.6%	+16.0%
USD	137.57	129.68		135.09	123.38	
EUR	149.62	138.11		145.88	134.39	

第2四半期の世界経済は、物価上昇抑制を目的とする金利引き上げの継続により、今後の景気に対する不透明感は依然として残るものの、これまでのところ個人消費や雇用環境も底堅く推移しており、前四半期から大きな変化は見られませんでした。

当社関連製品の市場も総じて想定線で推移する中、第2四半期の業績は全体としては計画通りの水準となりました。事業別には出荷の調整局面にあるレーザープリンターが減収となりましたが、イメージング、メディカルを中心に好調な売上を維持しており、為替の追い風も受けて、10四半期連続の増収を達成しました。

営業利益については、昨年は第2四半期がコロナ後のレーザープリンターの製品供給回復により、消耗品売上が大きく伸びた時期であったため減益となりますが、売上拡大やコストダウンは確実に進んでおり、利益額・利益率ともに第1四半期を上回り、収益性は着実に向上しています。

その結果、売上高は対前年2.2%増の1兆209億円、営業利益は6.3%減の923億円、純利益は10.8%増の654億円となりました。売上高は第2四半期としては5年ぶりに1兆円を超え、2008年のリーマンショック後、15年振りの大きさとなりました。

上期合計では、売上高は対前年6.1%増の1兆9,920億円、営業利益は1.2%増の1,767億円、純利益は16.0%増の1,218億円となり、増収増益を達成しました。

2023年 ビジネスユニット別PL(2Q/上期)

- イメージングは、ミラーレスカメラ新製品と好調なネットワークカメラで、高収益性を維持
- その他のセグメントは、市況影響や経費増などで減益

(億円)		2Q			上期		
		2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 実績	2022年 実績	対前年
プリンティング	売上高	5,749	5,705	+0.8%	11,331	10,777	+5.1%
	営業利益 (%)	593 (10.3%)	669 (11.7%)	-11.4%	1,099 (9.7%)	1,195 (11.1%)	-8.0%
イメージング	売上高	2,192	2,009	+9.1%	4,117	3,581	+15.0%
	営業利益 (%)	345 (15.7%)	324 (16.1%)	+6.4%	717 (17.4%)	457 (12.8%)	+56.8%
メディカル	売上高	1,261	1,182	+6.7%	2,572	2,364	+8.8%
	営業利益 (%)	44 (3.5%)	83 (7.0%)	-46.8%	113 (4.4%)	146 (6.2%)	-22.7%
インダストリアル	売上高	749	783	-4.4%	1,369	1,467	-6.7%
	営業利益 (%)	121 (16.1%)	156 (19.9%)	-22.4%	195 (14.2%)	278 (18.9%)	-29.8%
その他及び全社	売上高	462	545	-15.3%	966	1,033	-6.5%
	営業利益	-165	-243	-	-345	-332	-
消去	売上高	-204	-236	-	-435	-441	-
	営業利益	-15	-4	-	-12	2	-
連結合計	売上高	10,209	9,988	+2.2%	19,920	18,781	+6.1%
	営業利益 (%)	923 (9.0%)	985 (9.9%)	-6.3%	1,767 (8.9%)	1,746 (9.3%)	+1.2%

※2022年年間決算発表より従来「インダストリアルその他」に含まれていた露光装置と産業機器を「インダストリアル」として独立させ、その他の事業については全社費用と合算しております。加えて2023年より、「その他及び全社」に含めて開示していたビジネスの一部を「プリンティング」に移しており、2022年実績を遡及して組み替えています。

ビジネスユニット別の第2四半期および上期の実績です。

プリンティングについては、オフィス複合機は昨年から大きく販売台数を伸ばして増収となりましたが、レーザープリンターの売上減少により、減益となりました。

イメージングは、ミラーレスカメラの新製品が売上を伸ばし、ネットワークカメラも需要拡大を捉えて成長を続け、増収・増益を達成し、利益率も高い水準を維持しています。

メディカルは、各画像診断装置が売上を伸ばし増収となりましたが、販売要員の増強や、M & A・事業取得に伴う費用など、成長投資が先行して発生し、減益となりました。

インダストリアルは、FPD露光装置が顧客の調整局面にあり、前年を下回る売上・利益となりました。

2023年 見通しのポイントと全社PL

- これまでのシナリオを維持し、為替前提の変更影響を上方修正
- 2008年以来の営業利益4,000億円超えを目指す

(億円)	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
売上高	43,630	40,314	+8.2%	43,130	+500
売上総利益 (売上総利益率)	20,130 46.1%	18,278 45.3%	+10.1%	19,800 45.9%	+330
経費 (経費率)	16,130 36.9%	14,744 36.5%		16,000 37.1%	-130
営業利益 (営業利益率)	4,000 9.2%	3,534 8.8%	+13.2%	3,800 8.8%	+200
税引前利益	4,250	3,524	+20.6%	4,100	+150
純利益 (純利益率)	2,920 6.7%	2,440 6.1%	+19.7%	2,850 6.6%	+70
USD	135.05	131.66		130.00	
EUR	145.42	138.42		140.00	

2023年下期の為替影響額 (1円の変動による影響)	
売上	営業利益
USD 69億円	22億円
EUR 35億円	17億円

通期の業績見通しです。

前提となる下期の為替レートは、1ドル 135円、1ユーロ 145円と前回見通しからドル・ユーロ共に5円円安に見直しました。

世界経済については、見通しは不透明ながら、堅調な雇用と所得に基づく個人消費の拡大により、年後半も緩やかながら回復していくと想定しています。

世界経済や当社関連市場の見通しに大きな変化はなく、下期はネットワークカメラ、メディカル、商業印刷などの新規事業は成長を継続するとともに、商戦期を迎えるプリンターやカメラは市況を見極めながら積極的に販売促進活動を行い、各ビジネスユニットの売上をさらに伸ばしていく計画です。コストについても、部品代や物流費は下期にかけてさらに低下する見込みであり、収益性も向上していきます。

これらを踏まえ、年間の業績見通しについては、これまでのシナリオを維持するとともに、為替の前提見直しにより売上高で500億円、営業利益で200億円、純利益で70億円、それぞれ上方修正し、売上高は対前年8.2%増の4兆3,630億円、営業利益は13.2%増の4,000億円、純利益は19.7%増の2,920億円とします。

2008年以來15年ぶりに営業利益を4,000億円台にのせ、3期連続の増収増益を目指します。

2023年 ビジネスユニット別PL(年間)

- 4つのビジネスユニット全てで増収増益の計画
- メディカルは売上・利益ともに最高業績の更新を目指す

(億円)		2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
プリンティング	売上高	23,990	22,726	+5.6%	23,688	+302
	営業利益 (%)	2,418 (10.1%)	2,124 (9.3%)	+13.8%	2,318 (9.8%)	+100
イメージング	売上高	9,150	8,035	+13.9%	9,011	+139
	営業利益 (%)	1,518 (16.6%)	1,266 (15.8%)	+19.9%	1,387 (15.4%)	+131
メディカル	売上高	5,762	5,133	+12.2%	5,707	+55
	営業利益 (%)	406 (7.0%)	310 (6.0%)	+30.9%	434 (7.6%)	-28
インダストリアル	売上高	3,529	3,292	+7.2%	3,520	+9
	営業利益 (%)	608 (17.2%)	580 (17.6%)	+4.8%	618 (17.6%)	-10
その他及び全社	売上高	2,248	2,123	+5.9%	2,244	+4
	営業利益	-943	-738	-	-950	+7
消去	売上高	-1,049	-995	-	-1,040	-9
	営業利益	-7	-8	-	-7	0
連結合計	売上高	43,630	40,314	+8.2%	43,130	+500
	営業利益 (%)	4,000 (9.2%)	3,534 (8.8%)	+13.2%	3,800 (8.8%)	+200

※2022年年間決算発表より従来「インダストリアルその他」に含まれていた露光装置と産業機器を「インダストリアル」として独立させ、その他の事業については全社費用と合算しております。加えて2023年より、「その他及び全社」に含めて開示していたビジネスの一部を「プリンティング」に移しており、2022年実績を遡及して組み替えています。

5

ビジネスユニット別の年間見通しとなります。

4つのビジネスユニット全てで、対前年で増収増益の計画であり、プリンティング、イメージング、インダストリアルでは2桁の利益率を見込んでいます。

また、メディカルについても、売上・利益ともに昨年に続き最高業績の更新を目指していきます。

- バックオーダー解消後も、販売は堅調
- 幅広い製品ラインアップとソリューションの提案によって、シェア拡大

(億円)

	2Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
オフィス	2,452	2,147	+14.2%	9,843	8,889	+10.7%	9,611	+232
プロシューマー	2,329	2,677	-13.0%	10,298	10,213	+0.8%	10,298	0
プロダクション	968	881	+9.9%	3,849	3,624	+6.2%	3,779	+70
売上高計	5,749	5,705	+0.8%	23,990	22,726	+5.6%	23,688	+302
営業利益	593	669	-11.4%	2,418	2,124	+13.8%	2,318	+100
%	10.3%	11.7%		10.1%	9.3%		9.8%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 2Q実績	2023年 最新見通し
オフィス	+10.0%	+8.6%
プロシューマー	-15.4%	+0.1%
プロダクション	+3.3%	+3.0%
合計	-2.9%	+3.9%

■ 対前年台数伸び率

	2023年 2Q実績	2023年 最新見通し
オフィス複合機	+17%	+7%



『imageRUNNER ADVANCE DX C5800』シリーズ

※2023年より、「その他及び全社」及び「プリンティング」オフィスに含めていたビジネスの一部を「プリンティング」プロシューマーに移しており、2022年実績を遡及して組み替えています。

オフィス複合機は、画質や印刷スピード、耐久性に優れたオフィスにおけるメインのプリンティング機器として需要は底堅く、今年の市場は5%程度拡大すると見込んでいます。

当社の第2四半期は、製品供給も安定化しバックオーダーは解消していますが、引き続き販売は堅調であり、供給不足であった昨年と比べ大きく売上を伸ばしました。

当社はオフィス複合機の豊富なラインアップに加え、レーザーとインクジェットプリンターまで幅広いプリンティング機器を取り揃えており、それらに共通のソフトウェアを展開し同じプリント環境を提供することで、在宅勤務やオフィスの分散化など多様化した働き方に対応し販売を伸ばしています。

また、環境意識の高い欧州を中心に、製品回収や再生品利用など優れた環境対応も進めており、今年も市場成長を上回る年間販売台数プラス7%を目指します。

プリンティング（プロシューマー）

Canon

- レーザー：カラー中高速機の新製品を中心に拡販を図る
- インクジェット：ラインアップ拡充した大容量インクモデルの積極拡販

(億円)

	2Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
オフィス	2,452	2,147	+14.2%	9,843	8,889	+10.7%	9,611	+232
プロシューマー	2,329	2,677	-13.0%	10,298	10,213	+0.8%	10,298	0
プロダクション	968	881	+9.9%	3,849	3,624	+6.2%	3,779	+70
売上高計	5,749	5,705	+0.8%	23,990	22,726	+5.6%	23,688	+302
営業利益 %	593 10.3%	669 11.7%	-11.4%	2,418 10.1%	2,124 9.3%	+13.8%	2,318 9.8%	+100

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 2Q実績	2023年 最新見通し
オフィス	+10.0%	+8.6%
プロシューマー	-15.4%	+0.1%
プロダクション	+3.3%	+3.0%
合計	-2.9%	+3.9%

■ 対前年台数伸び率

	2023年 2Q実績	2023年 最新見通し
LP	-22%	-5%
インクジェット	-11%	+1%



インクジェットプリンター
大容量インクモデル
『G3370』シリーズ

※2023年より、「その他及び全社」及び「プリンティング」オフィスに含めていたビジネスの一部を「プリンティング」プロシューマーに移しており、2022年実績を遡及して組み替えています。

7

レーザープリンターの第2四半期は、昨年下期以降の市況悪化から出荷調整を継続していること、また、昨年は製品供給の回復局面にあり売上の水準が高かったことから、本体・消耗品ともに減収となりました。

下期からは、市況の回復が見込まれることに加え、4月に発売し市場の評判が良い中速機と高速機の2つのカラー新シリーズが、売上の回復を牽引していきます。

これらプリントボリュームの多い新シリーズの販売台数増が来年以降の消耗品売上につながるとともに、部品の共通化や設計のモジュール化など開発段階からの原価低減を進めており、事業の収益性も向上していきます。

インクジェットプリンターの第2四半期は、中国でコロナ対策の方針変更により在宅勤務・学習需要が鈍化するなど、家庭での印刷需要が軟化し、計画を下回りました。

一方で、下期からの拡販に向けた大容量インクモデルを中心とするラインアップの拡充は計画通りに行っており、第3四半期からはプロモーションも積極的に行うことで、販売台数を伸ばしていきます。

プリンティング（プロダクション）

- 2Qは新製品を中心に売上を伸ばし、9四半期連続の増収
- 「Colorado M」拡販やディーラー拡大により、さらなる売上成長

(億円)

	2Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
オフィス	2,452	2,147	+14.2%	9,843	8,889	+10.7%	9,611	+232
プロシューマー	2,329	2,677	-13.0%	10,298	10,213	+0.8%	10,298	0
プロダクション	968	881	+9.9%	3,849	3,624	+6.2%	3,779	+70
売上高計	5,749	5,705	+0.8%	23,990	22,726	+5.6%	23,688	+302
営業利益	593	669	-11.4%	2,418	2,124	+13.8%	2,318	+100
%	10.3%	11.7%		10.1%	9.3%		9.8%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 2Q実績	2023年 最新見通し
オフィス	+10.0%	+8.6%
プロシューマー	-15.4%	+0.1%
プロダクション	+3.3%	+3.0%
合計	-2.9%	+3.9%



グラフィックアーツ向け大判プリンター
『Colorado M-シリーズ』

※2023年より、「その他及び全社」及び「プリンティング」オフィスに含めていたビジネスの一部を「プリンティング」プロシューマーに移しており、2022年実績を逆足して組み替えています。

8

プロダクション市場は、インフレの継続から投資に慎重な会社の一部見られますが、総じて印刷会社は計画通りに印刷機の購入を進めており、プリントボリュームも堅調に推移しています。

当社の第2四半期は大型の連帳機や社内印刷向けの新製品を中心に売上を伸ばし、サービス収入についても、ここ数年本体の市場での稼働台数が増えていることで増加し、9四半期連続の増収となりました。

下期からは、今後の売上を牽引するグラフィックアーツの領域で第2四半期に発売した大判プリンター「Colorado M」を本格的に販売していく計画であり、取り扱いディーラーの拡大も図りながら、売上のさらなる成長を目指していきます。

イメージング（カメラ）

Canon

- 2Qはカメラ新製品とRFレンズの販売好調で2桁の増収
- Rシリーズ初のエントリーモデル「EOS R50」「EOS R100」ですそ野拡大

(億円)

	2Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
カメラ	1,419	1,270	+11.8%	5,691	5,097	+11.6%	5,606	+85
ネットワークカメラ他	773	739	+4.6%	3,459	2,938	+17.8%	3,405	+54
売上高計	2,192	2,009	+9.1%	9,150	8,035	+13.9%	9,011	+139
営業利益	345	324	+6.4%	1,518	1,266	+19.9%	1,387	+131
%	15.7%	16.1%		16.6%	15.8%		15.4%	

EOS Rシリーズ最小・最軽量の

『EOS R100』



■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

■ 対前年台数伸び率 (単位:万台)

	2023年 2Q実績	2023年 最新見通し
カメラ	+6.8%	+9.6%
ネットワークカメラ他	-1.4%	+14.7%
合計	+3.8%	+11.5%

	2023年2Q実績 台数	2023年最新見通し 伸び率	2023年最新見通し 台数	2023年最新見通し 伸び率
レンズ交換式	78	+14%	290	+1%



Vlog撮影に特化した
『PowerShot V10』

カメラ市場は、各社のミラーレスカメラ新製品がユーザーの需要を喚起しており、2023年は前年から微増となる585万台と想定しています。

当社は、昨年から今年にかけて、ハイアマチュア向けからエントリークラスまで6機種のカメラを発売し、EOS Rシリーズのラインアップ強化を図ってきました。第2四半期は、こうした新製品の販売が好調に推移し、また本体と併せてRFレンズの販売台数も増えたことで、2桁の増収となりました。

年間でも前年を上回る290万台を販売し、2桁の売上成長を目指していきますが、カメラユーザーのすそ野を広げるため、3月のEOS Rシリーズ初のエントリーモデル「EOS R50」に次いで、6月には「EOS R100」を発売しました。シリーズ最小・最軽量となるこの製品は、スマートフォンからのステップアップを促すよう、本格的な撮影を手軽に楽しめるモデルになっています。

また、拡大する動画需要を取り込むために、Vlog撮影に特化したカメラ「PowerShot V10」を6月に発売しました。4K・毎秒30フレームの高画質での長時間撮影や、広角レンズによる近距離での自然な自撮りが特長であり、今後もスマートフォンとの差別化を図りながら、新しいカメラを提供していきます。

- 2Qのネットワークカメラ売上は2桁増収
- 製品ラインアップを拡充し、成長する市場のニーズを取り込む

(億円)

	2Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
カメラ	1,419	1,270	+11.8%	5,691	5,097	+11.6%	5,606	+85
ネットワークカメラ他	773	739	+4.6%	3,459	2,938	+17.8%	3,405	+54
売上高計	2,192	2,009	+9.1%	9,150	8,035	+13.9%	9,011	+139
営業利益	345	324	+6.4%	1,518	1,266	+19.9%	1,387	+131
%	15.7%	16.1%		16.6%	15.8%		15.4%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 2Q実績	2023年 最新見通し
カメラ	+6.8%	+9.6%
ネットワークカメラ他	-1.4%	+14.7%
合計	+3.8%	+11.5%



危険エリアでの設置に適したネットワークカメラ
「AXIS XFQ1636」

10

ネットワークカメラ市場は、セキュリティからマーケティングや生産工程管理など用途を広げながら拡大を継続しており、当社は第2四半期も2桁の増収を達成しました。

当社は増加する需要を確実に取り込むため、多様化する用途や使用場所に対応し、製品ラインアップの拡充を進めています。加えて、セールスやマーケティング部門の増員により販売パートナーとの強固なネットワークをさらに増強することで、今年度は年間で20%の成長を見込んでいます。

その他の製品については、シネマ用ビデオカメラが昨年新製品を発売し、第2四半期がセリンを進めた時期であり、売上が高い水準であったため減収となりましたが、年間では増収を計画しております。

- 2Qは、各装置が前年から売上げを伸ばし約7%の増収
- 下期はさらに売上を拡大し、年間で2桁の売上成長、7%台の営業利益率を目指す

(億円)

	2Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
売上高計	1,261	1,182	+6.7%	5,762	5,133	+12.2%	5,707	+55
営業利益	44	83	-46.8%	406	310	+30.9%	434	-28
%	3.5%	7.0%		7.0%	6.0%		7.6%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 2Q実績	2023年 最新見通し
合計	+3.5%	+11.0%



80列CT
『Aquilion Serve』



超音波診断装置
『Aplio go/Aplio flex』

11

2023年の画像診断装置の市場は、コロナの影響で控えられていた大型装置への投資も回復し、巡航速度である2%の成長が見込まれます。

当社の第2四半期は、納入先の医療機関の都合により、大型装置の据付けが一部後ろ倒しになったものの、欧州の超音波診断装置を始め、各装置が前年から売上を伸ばし、約7%の増収となりました。

米国で進めてきた販売要員の増員とテリトリーの再編による販売体制の強化は、商談数の増加、受注額の増加として成果が出てきています。

下期は確実に設置を進めるとともに、新規受注の獲得を図っていきます。

CTの新製品「Aquilion Serve」は、昨年日本から発売を開始し、AIを活用して開発した高精細な画像や、キヤノンのカメラ技術を使った自動位置合わせが好評であり、今年から更に機能を強化し、本格的にグローバル展開しています。多くの医療機関で実用機として使用されている80列検出器を搭載しており、販売台数の増加が期待できます。

昨年末から大型装置の販売が増加しているため、サービス売上も増えてきており、年間で2桁の売上成長と、7%台の営業利益率を目指していきます。

- 半導体露光装置は生成AIの発展もあり、堅調な年間195台の販売
- パネル向け装置は、来期以降にむけ製品力の向上を図る

(億円)

	2Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
光学機器	506	512	-1.0%	2,294	2,404	-4.6%	2,292	+2
産業機器	243	271	-10.6%	1,235	888	+39.1%	1,228	+7
売上高計	749	783	-4.4%	3,529	3,292	+7.2%	3,520	+9
営業利益	121	156	-22.4%	608	580	+4.8%	618	-10
%	16.1%	19.9%		17.2%	17.6%		17.6%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 2Q実績	2023年 最新見通し
	光学機器	-2.0%
産業機器	-10.9%	+39.4%
合計	-5.1%	+7.6%

■ 露光装置台数 (単位：台)

	2023年 2Q実績	2022年 2Q実績	2023年 最新見通し	2022年 実績
	半導体	42	40	195
FPD	9	8	33	51



後工程向け半導体露光装置
『FPA-5520iV』

12-1

半導体デバイス市場は、メモリの低迷により今年は一時的に縮小しますが、今後長期にわたって成長が見込まれており、経済安全保障の点から各国が進める自国生産の動きにも後押しされ、各メーカーは計画的に設備投資を進めており、露光装置については今年も拡大が続きます。

当社は、堅調なパワーデバイスやセンサー向けに加え、生成AIの発展により、先端パッケージの後工程用露光装置の受注が伸びてきています。生産能力についても昨年より生産スペースや要員を増強してきたことで、第2四半期の販売台数は42台まで増えており、第3四半期以降、出荷・設置をさらに進めて、年間では195台の台数を見込んでいます。

インダストリアル（光学機器/産業機器）

Canon

- 半導体露光装置は生成AIの発展もあり、堅調な年間195台の販売
- パネル向け装置は、来期以降にむけ製品力の向上を図る

(億円)

	2Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
光学機器	506	512	-1.0%	2,294	2,404	-4.6%	2,292	+2
産業機器	243	271	-10.6%	1,235	888	+39.1%	1,228	+7
売上高計	749	783	-4.4%	3,529	3,292	+7.2%	3,520	+9
営業利益	121	156	-22.4%	608	580	+4.8%	618	-10
%	16.1%	19.9%		17.2%	17.6%		17.6%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 2Q実績	2023年 最新見通し
	光学機器	-2.0%
産業機器	-10.9%	+39.4%
合計	-5.1%	+7.6%

■ 露光装置台数 (単位：台)

	2023年 2Q実績	2022年 2Q実績	2023年 最新見通し	2022年 実績
	半導体	42	40	195
FPD	9	8	33	51



後工程向け半導体露光装置
『FPA-5520iV』

12-2

ディスプレイ製造装置の市場については、今年はテレビやPCの市況低迷によりパネルメーカーが投資を控えています。2024年以降は、ノートPCやタブレットといったITパネルの有機ELシフトが原動力となり、需要が緩やかに増えていく見込みです。

当社のFPD露光装置は、車載パネル向けといった堅調な分野はあるものの、市場縮小の影響で販売台数が昨年から減少する見込みです。来年に向けて、ITパネル向けの大型装置についても一括露光方式の強みを生かしながらさらに生産性を高め、製品力の強化を図ります。

有機EL蒸着装置についても、スマートフォンパネル向けで培った生産ノウハウや顧客との信頼関係を活かしながら、ITパネル向けでも当社が業界標準の装置の地位を確立できるよう、新たな装置の開発・生産を進めていきます。

有機EL蒸着装置の他にも、延伸しているスパッタリング装置の設置を今年進めることで、産業機器の売上は前年から大きく伸びる見通しです。

在庫の状況

- 6月末在庫は為替の影響を除くと、3月と同水準
- 年末に向け、部品・原材料在庫、商品在庫とも適正水準へ

(金額：億円)	2022年				2023年		
	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	
プリンティング	金額	3,247	3,536	4,081	3,668	3,725	3,875
	日数	58	60	67	56	57	62
イメージング	金額	1,171	1,266	1,436	1,376	1,636	1,733
	日数	63	64	65	56	69	77
メディカル	金額	1,205	1,294	1,377	1,283	1,363	1,431
	日数	89	100	103	85	88	102
インダストリアル	金額	1,178	1,338	1,374	1,240	1,330	1,400
	日数	131	166	152	124	154	187
その他及び全社	金額	531	547	571	516	534	542
	日数						
合計	金額	7,332	7,981	8,839	8,083	8,588	8,981
	日数	73	78	81	69	74	82

13

6月末の在庫は、3月末と比べて約400億円増加しましたが、円安による外貨建て資産の評価換えの影響であり、為替影響を除くとほぼ同じ水準となっています。

部品と原材料については、部品逼迫の状況下で行っていた早期確保を改め、通常の在庫水準に戻す動きをすでに開始しているため、第3四半期からその効果が現れてくる見通しです。

商品在庫は、下期の拡販のため半導体露光装置やメディカル、ネットワークカメラなどで計画的に積み増している状態であり、年末に向けて適正な水準に戻る見込みです。

キャッシュフロー(年間)

- 6,330億円の営業CFから、2,570億円を成長に向け積極投資
- 年間配当予想を20円増額し、残りは自社株買いや借入返済へ

(億円)	2023年 最新見通し	2023年 前回見通し	2022年 実績	2021年 実績
営業活動によるキャッシュフロー	6,330	6,260	2,626	4,510
投資活動によるキャッシュフロー	-2,570	-2,500	-1,808	-2,072
フリーキャッシュフロー	3,760	3,760	818	2,438
財務活動によるキャッシュフロー	-3,840	-3,791	-1,468	-2,674
為替変動影響	39	-10	257	173
現預金の純増減額	-41	-41	-393	-63
現預金の期末残高	3,580	3,580	3,621	4,014
手元回転月数	0.9	1.0	1.0	1.3
設備投資	2,400	2,400	1,833	1,790
償却費	2,400	2,400	2,265	2,212

14

営業キャッシュフローについては、3,000億円に迫る純利益に加え、下期に在庫削減を進めることで、6,330億円と昨年を大きく上回るキャッシュを創出する見通しです。

投資キャッシュフローは、CMOSセンサーと半導体露光装置の工場建設や、医療事業のM&Aを含め、将来の成長のため2,570億円を使用する計画であり、3,760億円のフリーキャッシュフローを見込んでいます。

株主還元としては、上期までの計画の進捗を踏まえて、配当性向50%を目途とする方針の下で、年間の配当予想を20円増額し、1株あたり140円に引き上げました。

3,600億円程度の現預金を保持しながら、残りの資金については、5月から2度に渡って合計1,000億円実施しているように自社株買いや、借入金の返済など、状況に応じて用途を判断していきます。

■ 環境のための技術開発に取り組み、サステナブル社会の実現に貢献

課題

＜プラスチックのリサイクル工程＞

赤外線：色素に吸収されて黒色のプラスチックの適切な分別ができない。
レーザー光：黒色プラスチックは反射する光が少なく、計測には時間がかかる。

新技術

キヤノンの計測・制御機器をリサイクル工程に導入

＜レーザー光＞

・レーザー光を照射し、
物質の化学情報をもつ
反射光を取得。



組み合わせ

＜キヤノン計測・制御機器＞

・事前にプラスチックの特徴を計測。
・プラスチックの特徴に適した
レーザー光を照射。



レーザー光を照射する
『ガルバノスキャナーモーターGM-2020』



非接触測長計『PD-704』

製造メーカーにおける再利用可能なプラスチック量を最大化

15

当社は、最重要課題の1つとして定めた「資源循環」型社会への貢献を目指し、製品の小型・軽量化やリユース・リサイクルに力を入れて取り組んできました。

7月には、レーザー光と計測・制御機器を組み合わせ、リサイクル工程でプラスチックを高精度に選別できる新たな技術を発表しました。

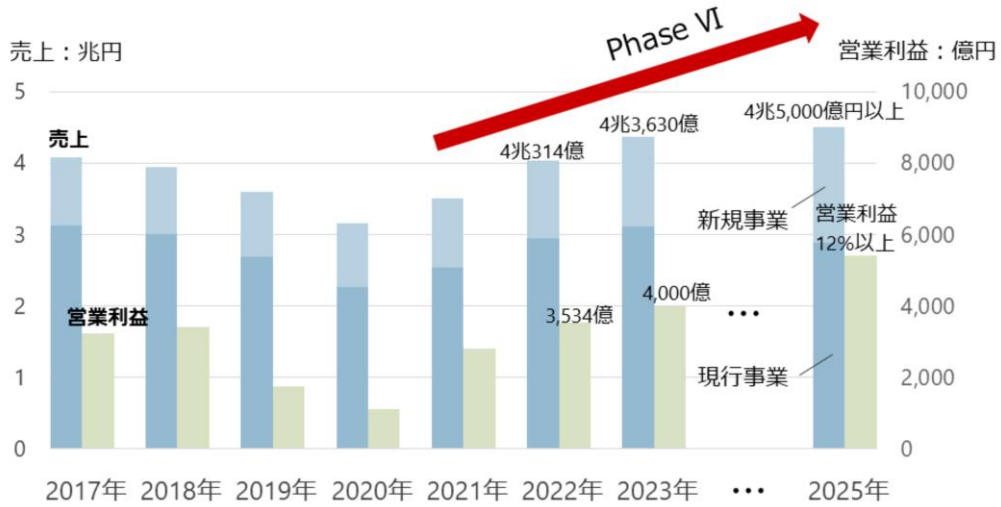
一般的なプラスチックの選別では赤外線を使いますが、黒色の場合、赤外線が色素に吸収されて適切に分別できません。レーザー光では黒色も計測できますが、他の色に比べて反射する光が少なく、計測に時間がかかるという課題があります。

当社の技術では、プラスチックの色や濃度、大きさ、またベルトコンベヤーの速度などを事前に計測することで、その情報を基に一つ一つのプラスチックに適したレーザー光を照射できるようになりました。白や黒が混在していても自動でリサイクルできるようになるため、製造メーカーにおける再利用可能なプラスチック量の最大化に貢献できます。

今後も、当社の生産活動において「資源循環」や「CO2削減」を進めるのに加え、環境のための技術を開発し、それを社会へ提供することで、サステナビリティな社会の実現に向け、一層貢献していきます。

グローバル優良企業グループ構想 Phase VI Canon

■ 3期連続の増収増益を果たし、2025年の業績目標達成に繋げる



「グローバル優良企業グループ構想Phase6」の折り返しにあたる今年の上期は、新規事業の売上2桁成長と、現行事業の高い収益貢献により増収増益を達成しました。

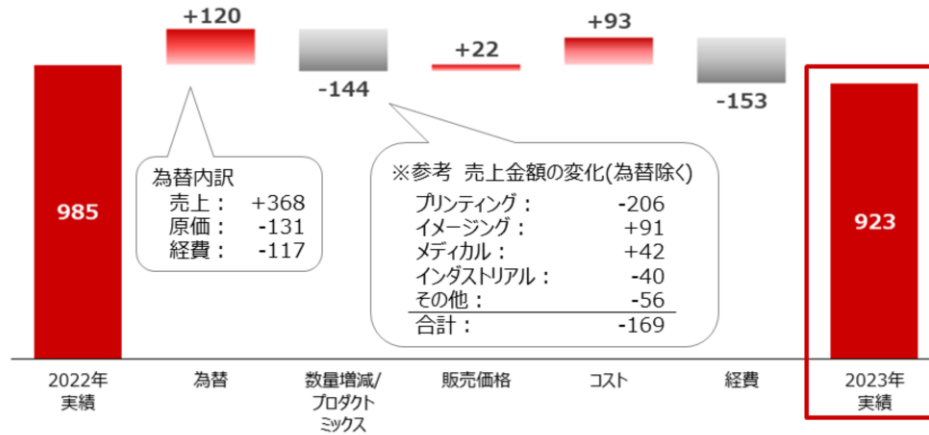
下期はさらに売上の成長を加速させ、過去最高の2007年に次ぐ売上を目指すとともに、営業利益を4,000億円の大台に乗せる計画です。3年連続の増収増益を果たし、確実に2025年の業績目標を達成するとともに、さらなる上乗せを目指していきます。

參考資料

2023年 営業利益分析(2Q)対前年

- 数量増減はプリンターの売上減によりマイナス
- 経費は売上増に伴う販売関連経費及び研究開発費が増加

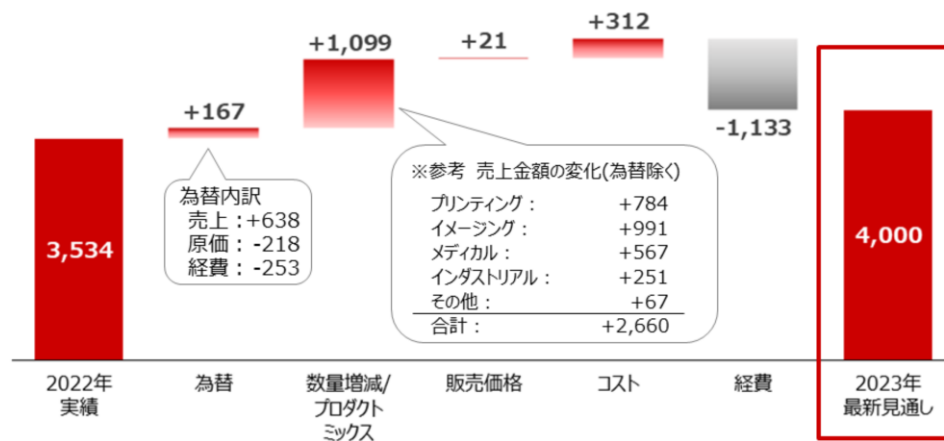
(億円)



2023年 営業利益分析(年間)対前年

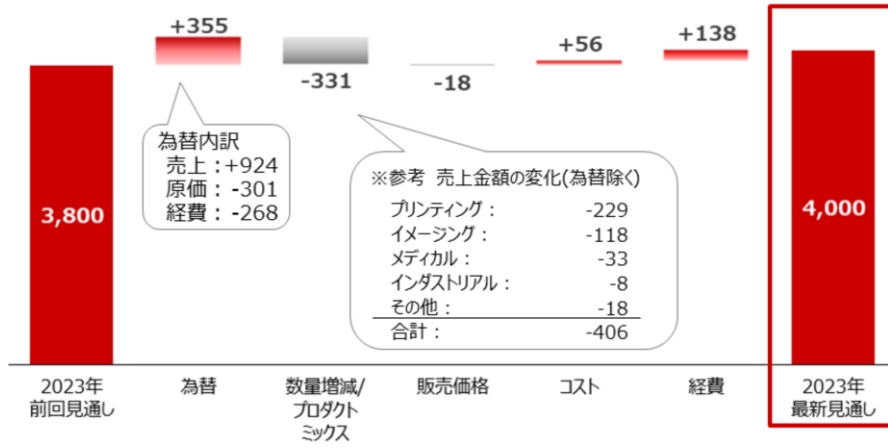
- 数量増減は4ビジネスユニット全て売上増によって増益
- 経費は拡販や今後の業績拡大の開発費を投入

(億円)



2023年 営業利益分析(年間)対前回

(億円)



■プリンティング ハード/ノンハード別 対前年売上伸び率

			2023年		2022年	
			2Q 実績	年間 最新見通し	2Q 実績	年間 実績
オフィス複合機	円貨	ハード	+21%	+13%	+10%	+30%
		ノンハード	+8%	+6%	+7%	+10%
	LC	ハード	+15%	+10%	-1%	+17%
		ノンハード	+3%	+4%	0%	+2%
LP	円貨	ハード	-6%	+5%	+47%	+34%
		ノンハード	-20%	-2%	+15%	+6%
	LC	ハード	-10%	+4%	+31%	+19%
		ノンハード	-20%	-2%	+4%	-2%
インクジェット	円貨	ハード	-19%	+1%	+35%	+34%
		ノンハード	0%	+2%	-10%	-7%
	LC	ハード	-23%	-1%	+22%	+21%
		ノンハード	-5%	-1%	-18%	-15%
プロダクション	円貨	ハード	+9%	+14%	+27%	+30%
		ノンハード	+11%	+2%	+21%	+23%
	LC	ハード	+3%	+11%	+15%	+15%
		ノンハード	+4%	-2%	+10%	+10%

※2023年より、「その他及び全社」及び「オフィス」オフィス複合機に含めていたビジネスの一部を「プロシューマー」インクジェットに移しており、2023年の伸び率は前年を組み替えた前提で表示しています。

■ オフィス/プロシューマー 製品別売上高

(億円)

		2023年		2022年	
		2Q 実績	年間 最新見通し	2Q 実績	年間 実績
オフィス	オフィス複合機	1,565	6,208	1,373	5,678
	オフィスその他	887	3,635	774	3,211
		2,452	9,843	2,147	8,889
プロシューマー	LP	1,497	6,535	1,762	6,512
	インクジェット	832	3,763	915	3,701
		2,329	10,298	2,677	10,213

■ 半導体露光装置台数 光源別内訳

(単位：台)

		2023年		2022年	
		2Q 実績	年間 最新見通し	2Q 実績	年間 実績
	KrF	10	59	12	51
	i線	32	136	28	125
	合計	42	195	40	176

※2023年より、「その他及び全社」及び「オフィス」オフィス複合機に含めていたビジネスの一部を「プロシューマー」インクジェットに移しており、2022年実績を遡及して組み替えています。